

大阪大学大学院

# 人文学研究科

Graduate School of Humanities  
Osaka University

人文学専攻 / 言語文化学専攻 / 外国学専攻 / 日本学専攻 / 芸術学専攻

## 研究科案内

### 2022年度設置

グローバル社会を支える「新しい人文学」を  
構築する人文学研究科

時代のニーズに合わせた  
新しい超領域的学びの場





# 新しい人文学を構築する人文学研究科

MISSION

## 設置の背景・ミッション

文学研究科および言語文化研究科は、創設時における社会の要請に応え、相応の役割を果たしてきました。しかしながら、今日、高度なIT基盤社会の到来、環境の危機的状況、少子化・高齢化、世界で進む分断と閉塞など社会や国際情勢が激変する中、人文学の役割も変化の時を迎え

つつあります。本研究科では、教育体制を時代に即してバージョンアップし、文系・理系の分断を超えて、大阪大学の諸学の基礎となり、今日のグローバル社会を支えていく「新しい人文学」を構築します。具体的には、下記のようなミッションに取り組んでいきます。

01

- Mission

文学、言語、歴史、芸術、地域研究等に関わる深い人文知を継承しながら、今日的課題に挑戦し、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

02

- Mission

人文学を最先端の科学技術と合体させたデジタルヒューマニティーズなど、新人文学分野を開拓します。

03

- Mission

全学教育推進機構等の学内組織と連携し、大阪大学のすべての学生に、文理の別にかかわらず社会人として必須のリベラル・アーツとしての人文学教育を開いていきます。

04

- Mission

多様なリカレント教育プログラムを導入し、高度な人文知を社会全体へと開いていきます。

## 育成する人材像

2研究科の統合に伴う専攻再編および人文学林によるシナジー効果によって、従来からの人材(大学・研究機関所属の専門的研究者、国内外の各種民間企業など)に加え、情報観、価値観、職業観、生命観、ジェンダー観などの変化や揺らぎといった、現在の社会や国際情勢の変化に対応する多様な人材を育成します。

### ■ 全専攻×デジタルヒューマニティーズ (DH)

DHの講義を全専攻から自由に履修できるようにし、最先端のDHの手法を身につけた修士・博士人材を創出します。

### ■ 日本学を支点として教育・研究を学際的・国際的・社会学連携的に展開

全学組織の「グローバル日本学教育研究拠点」と連携して、学際的・国際的・社会学連携的な教育プログラム・研究プロジェクトを多彩に展開し、高度な発信力・実践力を備えたグローバル人材を育成します。

### ■ インターンシップ導入による企業との交流と新しい人文学の人材創出

教員と企画室のバックアップのもと、「人文学実務研究」と「人文学インターンシップ」の2種の研究科共通教育科目を設置し、さまざまな業種の企業との交流を活性化していきます。

本研究科の特色

## 「人文学林」の設置

安定した教育プログラムを提供する5専攻群(人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学)に対して、社会のニーズにすばやく対応し、社会学連携活動を実施したり研究グループを立ち上げるなど、研究科全体の教育体制を俯瞰して共通科目を統括する機能を持つ組織である「人文学林」を新たに設置します。「人文学林」では、3つの学問分野と4つの地理的エリアを組み合わせる12に区分された「学術マトリクス」を設けており、教員はその12の区分に配置されています。学生は所属専攻の垣根を超えてそれぞれの興味関心に従ってその区分を選択することで、専攻を超えた交流や研究の振興が可能となります。

### 人文学林

- ▶ 学術マトリクスに教員・学生を配置し、専攻横断的な人材育成と研究を推進
- ▶ 従来の組織の壁を超えたシナジー効果

#### 3つの専門領域

- ① 言語科学・コミュニケーション系
- ② 思想・時空環境系
- ③ 文化表象系

#### 4つの地理的エリア

- ① 日本
- ② アジア・アフリカ
- ③ アメリカ・ヨーロッパ
- ④ エリア横断



## 専攻・コースと入学定員

専攻・コース	入学定員	
	博士前期課程 (161名)	博士後期課程 (65名)
人文学専攻	47名	14名
言語文化学専攻	32名	15名
外国学専攻	25名	11名
日本学専攻	基盤日本学コース	40名
	応用日本学コース	
芸術学専攻	17名	7名





# 専攻紹介

COURSE

## 人文学専攻

博士前期課程、博士後期課程

### 人間性の「知」に関わる総合的な研究・教育

下記4コースからなる人文学専攻は、「人文(humanities = 人間性)の知」に関する総合的な研究・教育を展開します。それぞれの学術的文脈に即した先端的かつ独自の研究・教育を継続するとともに、現代社会の諸課題に応えるための研究アプローチを積極的に取り込み、伝統的な人文知の更新を目指します。

### 哲学コース

哲学・思想・文化に関わる研究・教育を基礎／応用の両面から展開します。基礎に関係する専門分野には「哲学哲学史」(近現代西洋哲学を中心とした研究)「中国哲学」「インド学・仏教学」があり、厳密な文献読解に基づく古典研究を柱としています。応用に関係する専門分野には「科学技術社会論」(科学技術が社会に提起する諸問題について研究する学際的分野)「臨床哲学」(社会現場との関わりを重視する哲学)があり、哲学的な視点から現代社会の諸問題に取り組む試みです。

### 文学コース

「英米文学」「ドイツ文学」「フランス文学」「中国文学」(「テキスト表現論」グループ)と、世界と日本の文学を総合的・横断的に研究する「テキスト環境論」の5つの専門分野からなります。どの専門分野においても、従来の文学研究の手法を継承するとともに、民族・地域、言語、階級、ジェンダーの境界を超えた「越境の文学」の研究を目指します。また、文学作品のみならず、音楽、演劇、絵画、建築、漫画、映画など広い意味での「テキスト」を研究対象とします。

### グローバルヒストリー・地理学コース

東洋史学・西洋史学・人文地理学の3専門分野では、古代から現代まで、またミクロな地域社会からグローバルな構造的連鎖まで、学際的で先端的な研究方法を学びます。大学全体に開かれたグローバルヒストリー副プログラムに加えて、地域密着型のフィールドワークや、情報化時代の素養を身につけた人材を養成します。また、「歴史・地理教育プログラム」を設け、中高教員と連携して、市民に開かれた歴史・地理研究を目指します。

### 比較・対照言語学コース

言語の共時的・通時的分析の方法を学びます。共時的研究では、現在の英語、日本語などのいくつかの言語を対照させることによって、言語に関する規則性・法則性を発見することを目指します。通時的研究では、英語をはじめとする印欧諸語等の歴史的発達に関する知見を得ることを目標とします。いずれのアプローチにおいても、十分な言語データ・資料に基づいた理論構築を行うことを重要視しています。

## 言語文化学専攻

博士前期課程、博士後期課程

### 今日的な課題に幅広い観点から取り組むカリキュラム

伝統的なデザインにとらわれない「言語文化学コース」は、3分野にわたる6講座を有し、全講座が連携しながら、新たな研究領域や研究方法論を探究し、言語と文化に関する高度な教養や情報活用能力を修得することで、今日の多文化・多言語社会における国家・民族・文化間の諸問題等に取り組めます。

### 言語文化学コース

#### 分野Ⅰ 超領域文化論講座

古代から現代に至る文化・社会・思想・歴史に関する様々な事象や概念を、学問領域の枠にとらわれない広い視点で探究し、文化の形成と変容の諸相を多角的に究明するための総合的な知の体系の構築を目指します。文学・文化理論とフィールドワーク、その他諸学術分野との関連において超領域的でグローバルな視座から考察する力と感性を養成します。

#### 分野Ⅱ コミュニケーション論講座

現実の社会において発生する諸問題を「コミュニケーション」の観点から調査するとともに、その問題を克服し、より公正な社会を目指すための実際の技能と、言語に関連する諸理論との融合を試みます。多言語・多文化がひしめき合う現代社会において共生を可能にする言語文化リテラシー、およびコミュニケーションのデザイン力を追究します。

#### 分野Ⅲ 理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座

自然言語の仕組みや構造を解明するとともに、人間の言語能力の真相に迫るための普遍的規則や原理を科学的に分析記述し、共時的ならびに通時的な視点から言語体系を明らかにします。また、数理的モデリングや機械学習を高度に応用して大規模テキストコーパスやデジタルアーカイブの潜在的特徴を発掘し、分野横断的、巨視的分析と、理論言語学、文化学的知の蓄積に基づく洞察、微視的分析を相補的に組み合わせます。

#### 分野Ⅰ 表象文化論講座

活字や映像をはじめとする諸テキストや表象について、その多元的な生成・受容・伝達の仕組みを分析し、多様な文化現象の解明を目指します。異言語・異文化接触場面における文化変容や翻訳・翻案の研究、異なる地域や民族が有する言語文化の通時的・共時的諸相の比較、文化産業・大衆文化・メディア文化の動態の体系的考察をおこないます。

#### 分野Ⅱ 第二言語教育学講座

人がどのように母語以外の言語を使い、学び、そして教えるのかを研究する講座です。運用を目的とした第二言語教育に重点を置きながら、社会的・心理的・文化的な側面も研究領域に含めます。1つ以上の言語を用いる機会が増加している現代において、第二言語の実践または理論に関する問題を読み解き、専門家として対処できる能力を涵養します。

#### 分野Ⅲ 言語認知科学講座

人間の外界認知、知識獲得、情報処理など、言語の情報処理の観点から人間の認知的システムを科学的に捉えることにより、人間の認知メカニズムのひとつとしての言語能力の仕組みと働きについて研究します。また、言語学においてこうした観点に立つ認知言語学について、理論的枠組みと具体的な言語研究への適用との両面にわたって研究します。

## 外国学専攻

博士前期課程、博士後期課程

### 24の言語とその地域について多角的・徹底的に学べるカリキュラム

2コースから成る外国学専攻は、さまざまなディシプリンと実践にわたって、世界の諸地域の言語と文化を総合的に教授・研究する「外国学研究」を主眼としています。24の言語とそれを基底とする文化一般について、人文社会科学諸分野のディシプリンの成果を応用しつつ考察することによって、専攻地域の言語と文化への深い理解を基に世界で活躍する人材を育成します。[ただし、博士後期課程はコース区分なし]

### 地域文化研究コース

本コースは、研究対象とする言語・地域によって「アジア・アフリカ言語文化コース」と「ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース」に分かれています。多様な言語、文化、社会を対象とした科目とともに、特定地域の言語社会について知見を広め、実践力の強化と研究の高度化を図る科目、さらに、多角的な研究視座を養うため、個別の言語文化圏を超えて社会の関心と時代の要請に応える科目を開講しています。高度な言語運用能力を身につけるとともに、研究対象とする言語圏についての広く深い知識を土台に、物事を多角的に見る目を養いながら、言語学、文学、歴史学、社会学などの諸分野、またそれらの学際的なアプローチに焦点を当てた教育を実践します。それぞれのコースで対象とする言語は右枠の通りです。

#### ● アジア・アフリカ言語文化コース

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語

#### ● ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース

ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語

### 高度専門職業人コース

本コースは、博士前期課程のみのコースであり、「英語教員リカレント・コース」と「中国語教員リカレント・コース」に分かれています。中学校または高等学校の現職の英語・中国語の教員もしくは教員免許取得者を対象とし、高度な専門的知識を持つ職業人を育成することを目指しています。

#### ● 英語教員リカレント・コース

最先端の学識と英語運用能力を持つ、中学校・高等学校における英語教育の質の向上に貢献する人材を育成します。

#### ● 中国語教員リカレント・コース

最先端の学識と中国語運用能力を持つ、中学校・高等学校における中国語教育の質の向上に貢献する人材を育成します。

## 日本学専攻

博士前期課程、博士後期課程

### 基盤的研究と応用的展開の双方をカバーする日本最大規模の日本学専攻

5分野から成る「基盤日本学コース」と、3分野から成る「応用日本学コース」の2コースを擁する日本学専攻は、日本の言語・文化・社会・歴史・文学などを厳密に学問的な方法に基づいて深く探究するとともに、その専門的知見に基づいて日本の抱える今日の課題に果敢に取り組むことのできる人材を育成します。さらに、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎としてグローバルに活躍できる実践力・応用力を養います。

### 基盤日本学コース

本コースは、現代日本学、日本史学、考古学、日本文学・日本語史学、基盤日本語学の5分野から成ります。ディシプリン・ベースの厳密に学問的な研究方法をしっかりと身につけながら、日本の言語・文学・歴史等について深く学ぶことができます。また、日本の文化や社会への現代的・学際的関心を幅広くカバーする多彩な授業も用意されています。基盤的研究能力を養いながら日本について深く広く学びたい方の期待に応えるコースです。なお、本コースの授業は豊中キャンパスで開講されます。

### 応用日本学コース

本コースは、比較日本学、応用日本語学、日本語教育学の3分野から成ります。視野を世界に広げながら日本について深く学び、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎として日本と世界を結び力を養います。日本の言語や文化や社会について深く学びつつ、グローバルに活躍できる実践力・応用力を身につけたい方の期待に応えるコースです。このコースには、4月入学の実践トラックと10月入学の専修トラック（留学生のみ）を設けていますが、どちらのトラックでも上記の内容を同じように学ぶことができます。なお、本コースの授業は箕面キャンパスで開講されます。多くの留学生とともに学ぶことができる点も、本コースの特長の1つです。

## 芸術学専攻

博士前期課程、博士後期課程

### 基礎と社会的実践の両方に立脚、国立総合大学最大の芸術学の専攻

4コースから成る芸術学専攻では、他の何ものによっても代替不可能な営みである芸術を、全国的にも類を見ない規模で捉え、専門的・先端的且つ学際的な厚みと多様性を備えた研究・教育活動を行います。これにより、現代社会の諸システムの制約や限界を超え出る可能性・構想力を持った人材を育成します。

### アート・メディア論コース

作品を広範な社会環境のもとに連れ戻し文化政策・芸術計画の視点から考察すること、あるいは日々変貌するコミュニケーション技術のなかから新しい芸術理念やジャンルが立ち上がってくるさまをつぶさに目撃すること。本コースは文字通りアートとメディアの交差点に身を置きます。

### 美学・文芸学コース

美学分野では、感性・美・芸術にまつわる問題について哲学的に考察したり、現代アートについて議論したり、工芸やデザインに関係する事柄について研究したりできます。文芸学分野では、幅広く古今東西の文学や思想・文学論を対象とした研究ができ、また西洋古典学にも専門的に取り組むことができます。

### 音楽学・演劇学コース

音楽学も演劇学もともに我が国の総合大学において稀有な存在です。音楽文化、演劇文化全般をジャンルの隔てなく扱い、それらを広く表演芸術（パフォーマンス・アーツ）としてとらえて、歴史学、人類学、社会学、美学、文学などの隣接諸科学との関係の中で研究を進めています。

### 日本東洋美術史・西洋美術史コース

絵画、彫刻、工芸はもとより、写真や映像、建築、庭園など、あらゆる「イメージ」を研究対象としています。作品の様式や意味についての研究、制作の背景や受容の歴史など、さまざまな観点から、作品の的確な観察に基づいた実証的研究を行っています。



# 入試関連情報

ENTRANCE EXAM

## 入学試験

人文学研究科では、各専攻(日本学専攻は各コース)で入学試験を行います。入試の願書受付期間、試験期日、合格発表期日、また出願資格や選抜方法等の詳細については募集要項でご確認ください。特に、日本学専攻は、基盤日本学コースと応用日本学コースとでは出願期間も試験期日も異なりますので、注意してください。募集要項および最新情報は、研究科ウェブサイトでご確認ください。

専攻・コース	時期	試験区分	
		博士前期課程	博士後期課程
人文学専攻 日本学専攻基盤日本学コース 芸術学専攻	夏季・秋季	一般 社会人	社会人
	冬季	一般 外国人留学生	一般 外国人留学生
言語文化学専攻	夏季・秋季	区分なし	—
	冬季	区分なし	区分なし
外国学専攻 日本学専攻応用日本学コース・ 実践トラック	夏季・秋季	一般 外国人留学生 社会人	—
	冬季	一般 外国人留学生 社会人	区分なし

### 【補足・注意事項】

- ※博士前期課程においては、全ての専攻で年2回(夏季・秋季および冬季)の入試を行います。
- ※博士後期課程においては、全ての専攻で年1回(冬季)の入試を行います(ただし、人文学専攻/芸術学専攻/日本学専攻基盤日本学コースは、社会人のみ夏季・秋季に実施)。
- ※言語文化学専攻以外の4専攻(日本学専攻では2コース両方)では、一般選抜、社会人選抜、外国人留学生選抜の3方式を採用します(外国学専攻の博士後期課程は除く)。なお、言語文化学専攻については、選抜の区別はありません。
- ※日本学専攻応用日本学コース・専修トラックでは、外国人留学生の10月入学の募集を実施しています。詳しくは、箕面事務部学生支援係にお問い合わせください(連絡先は以下を参照)。なお、専修トラックには4月入学の募集はありません。

2022年5月現在の情報です。

## 入試説明会

### 入試説明会

各専攻・コースで入試説明会を行います。詳細は研究科ウェブサイトをご覧ください。

大阪大学大学院  
人文学研究科ウェブサイト  
<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>



### 人文学研究科紹介動画

人文学研究科および5専攻を紹介する公式YouTubeチャンネルがあります。

人文学研究科紹介動画  
大阪大学大学院人文学研究科公式YouTubeチャンネル  
<https://youtu.be/LuxFZ6xRnrc>



## 募集要項及び問い合わせ先

募集要項等は人文学研究科各専攻のウェブサイトに掲載しますので、ダウンロードのうえご利用ください。なお、ウェブサイトを利用できない場合は下記連絡先にお問い合わせください。

### ■ 人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5  
大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部教務係  
【TEL】06-6850-5085 【FAX】06-6850-5087  
【E-mail】jinbun-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp

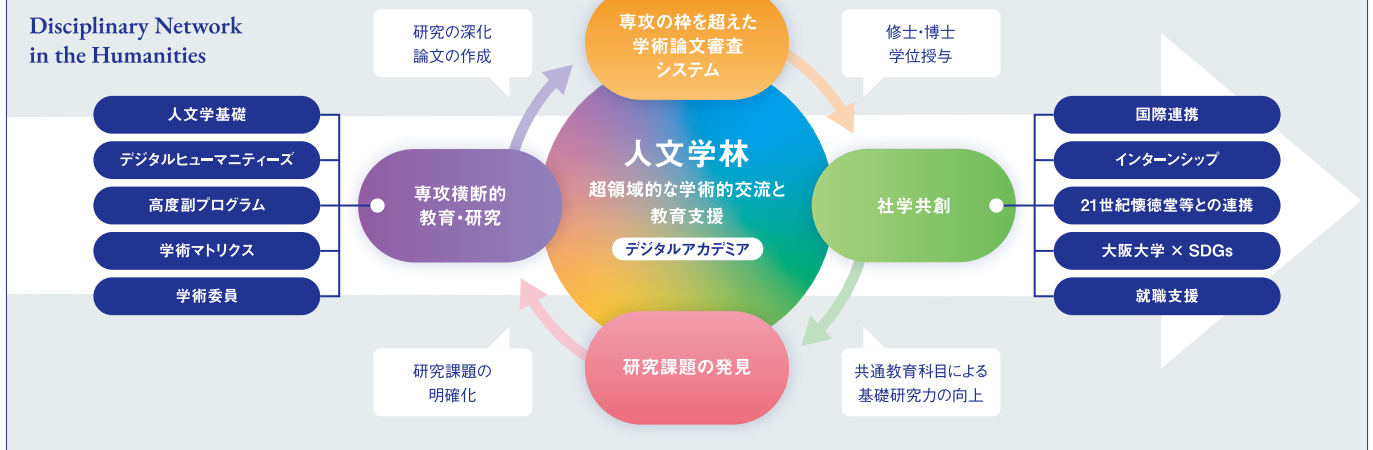
### ■ 言語文化学専攻

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8  
大阪大学大学院人文学研究科豊中事務部学務係  
【TEL】06-6850-5856 【FAX】06-6850-5865  
【E-mail】jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp

### ■ 外国学専攻・日本学専攻応用日本学コース

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10  
大阪大学大学院人文学研究科箕面事務部学生支援係  
【TEL】072-730-5041 【FAX】072-730-5057  
【E-mail】jinbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp

## 人文学林 人文学研究科の研究・学修支援エコシステム





# 学生の声

VOICE

人文学研究科の母体となる旧文学研究科と旧言語文化研究科に在籍していた学生から受験生へメッセージを送ります。

※所属先と学年は、2021年7月時点のもの



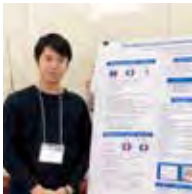
つばた さより  
**坪田 さより**  
文学研究科文化形態論専攻  
博士後期課程2年

私の所属する研究室では、『リグヴェーダ』を始めとするヴェーダの宗教にまつわる文献、初期仏教経典、叙事詩など、文化的・言語史的に価値ある、豊富な古代インド語の資料を、原典で読解・研究しています。比較的少人数であるため、院生・科目等履修生から学部生まで、異分野を扱う学生間でも交流が盛んで、日々の学習・研究における情報交換は勿論のこと、学生主導の勉強会も実施しています。あなたの考えていることは大体昔のひとも考えていたのです。宇宙の起源、魂の存在、善悪…。一緒に問いの答えを古代人に訊ねてみませんか？



まるやま とむひろ  
**丸山 智大**  
文学研究科文化表現論専攻  
博士前期課程1年

私は現在、フランスの作家ボリス・ヴィアンによって書かれた『日々の泡』という作品を研究しています。使われている語彙こそ比較的平易なものの、諧謔やオマージュなどに満ち満ちた怪作のため、中々に取り組み甲斐があります。大学院では学部の時よりもさらに専門的かつじっくりと研究対象に向き合うこととなります。特に研究成果を発表する機会が増えたり、院生の宿命として研究室での滞在時間が長くなる傾向があります。私は平日に加え、講義のない土日の空いている時間を見つけて行くことが多いです。是非、見学でも質問でも気軽に研究室へ！



おおたに しげあき  
**大谷 修樹**  
言語文化研究科言語文化専攻  
博士後期課程3年

現在、理論言語学の観点から日本語と他言語との比較研究を中心に行っております。大学院に入学してから言語学を学び始めたので、苦勞することも多かったですが、先生や先輩、同期のサポートもあり、なんとか自分で研究できるようになりました。この大学院では、院生主体の研究会が定期的に開催されており、この研究会を通して、気兼ねなく先生や院生と意見交換できることが、自分の研究を進める上で大変有意義なものとなっています。研究は一人では難しいと思いますので、研究を行うには非常に良い環境だと感じています。



うちやま よしあき  
**沈 吉頼**  
言語文化研究科言語文化専攻  
博士後期課程3年

言語の役割って何でしょうか？思いを表現したり、出来事を描写したりするだけのものだと思いませんか。それだけでなく、言語には人間関係に影響し、社会を維持・変革する力もあります。私は、この言語の持つ社会的側面への関心と、外国人としての立場から、日本の外国人高度人材受け入れ政策を対象に批判的談話研究を行っています。また、その延長で外国人技能実習生の支援に関する実践活動も行っています。様々な先生のご指導を受け、院生仲間と切磋琢磨し、自分の研究がどう社会に還元できるか意識しながら、研究を進めています。



ふじさわ たくみ  
**藤崎 拓海**  
言語文化研究科言語文化専攻  
博士後期課程3年

私達が普段何気なく行っている雑談の展開にどのような規則性が見られるのかについて、インドネシア語を事例に研究しています。私は入学当初、インドネシア語を知らない人に研究発表することに苦手意識がありましたが、研究科で定期開催されている会話分析の勉強会に1年目から参加したことで、他専攻の学生と自分のデータについて議論する機会に恵まれ、最近では大きな学会でも自分の研究を理解してもらえるようになりました。研究そのものは孤独な作業ですが、仲間と共に学べる環境にあるので楽しく続けることができている。



ひらの ゆめ  
**平野 優芽**  
言語文化研究科言語文化専攻  
博士前期課程1年

日本に住む在留外国人の数は年々増加し、私の専攻言語地域であるベトナムから来日する人の数も、二十年前で約十倍になりました。多様な文化がより身近に感じられるようになってきている一方で、「文化のちがひ」の一言では片づけられない問題が多く存在しているように思います。そのことから、私は在日ベトナム人が日本社会で直面する困難について研究を行っています。この大学院では、研究対象言語・地域も異なる他の院生と議論し、他専攻・他研究科の先生方からも学ぶことで、自身の研究テーマを深めていけるのが魅力のひとつです。



かぬこ ともみ  
**金 道瑛**  
文学研究科文化表現論専攻  
博士後期課程3年

「日本語」には単なる「自分の母語」「他国の言語」というだけでなく、「生活に必要な手段」「学習の対象」など、様々な側面があります。私は日本で生活している韓国人が、相手によって談話のどんな要素をどのように切り換えているかについて研究し、「操作対象としての日本語」を扱っています。私が所属する日本語学のコースでは、このように様々な日本語を、各分野の先生方のご指導や多国籍の学生同士の意見交換を通じて、多角的・客観的に捉えられます。日本語の多様性にどの興味がある方はぜひいらっしゃって一緒に研究できたらと思います。



Sonda Sanjaya  
**ソ ندا・サンジャヤ**  
言語文化研究科日本語・日本文化専攻  
博士後期課程2年

接触場面の初対面会話における、日本語母語話者のプライバシーに関わる話題に関する研究をしています。大阪大学は優秀な日本語・日本語教育の専門家の先生方やスタッフ、授業や勉強や研究に最適な施設に恵まれている大学です。大阪大学で新しい研究のアプローチや視野に出会い、自分の研究能力を伸ばすことができず光栄に思います。また、「地域に生き世界に伸びる」ことをモットーとする環境で、世界中の学生さんと関係を築けます。大学院の生活も住み場所をはじめ様々なサポートをしてもらえるため、安心して大学院の生活を楽しめます。



まつおか けんじ  
**松永 健聖**  
文学研究科文化形態論専攻  
博士前期課程2年

私は、戦後占領期の日本において米兵相手に性売買を行っていた「パンパン」と呼ばれる女性たちについて、ジェンダー史の視点から研究をしています。私が所属する日本学の研究室では、歴史学やジェンダー・セクシュアリティ研究、美術史、文化人類学、思想史など様々な学問的背景を持った教員・院生が、私たちが暮らす「日本」について、互いに触発されながら分野横断的な研究を行っています。テーマや研究方法は違いますが、互に関心を広げ、知見を深め合えるのがこの研究室の醍醐味です。皆さんとも、一緒に研究できることを楽しみにしています！



まつい たかし  
**松井 拓史**  
文学研究科文化表現論専攻  
博士後期課程3年

社会主義時代のハンガリーで結成された民俗舞踊団に関する研究をしています。現地での資料収集やインタビュー調査が主な活動です。以前から文学研究科と言語文化研究科を行き来していましたが、統合によって、私たちの研究をさまざまな視点から磨き上げるためのよりよい環境が用意されると思います。また、この多様な環境で、自身の研究内容を現代的諸問題と関連付けて考察し、身につけた多角的な考察力や思考法を社会と共有していくことが、人文学という学問の課題であり、面白い部分でもあると思います。



はしもと ともこ  
**橋本 知子**  
文学研究科文化形態論専攻  
修士課程2年

受験を決めたのは、4年かけて修士号取得を目指す長期履修という制度があると知ったからです。最近では、チューターが社会人をサポートする制度もできました。入学後は、働きながら指導教官から専門的な指導を受け、ゼミや授業を通して他の先生方からもアドバイスを頂き、徐々に研究目的が明確になりました。今はシャンタル・アケルマンのダンス映画についての研究をしています。他のゼミ生も多彩な研究をしており、ゼミで意見交換をすることで、他分野についての理解も進みました。今後は、外部での発表もしたいと考えています。





# 奨学金等の支援制度・就職先

SUPPORT

※表の数値および就職先は、旧文学研究科と旧言語文化研究科の実績を合わせたもの

## 奨学金制度

### 日本学生支援機構奨学金(貸与型)

第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)があり、ともに、学業、人物ともに優れ、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる者に奨学金が貸与される制度です。[外国人留学生は対象ではありません]

日本学生支援機構による奨学金の採用者数(人)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
博士前期課程	第一種	32	20	13
	第二種	3	1	1
博士後期課程	第一種	8	7	8
	第二種	1	0	4

特に優れた業績による返還免除採択者数(人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
博士前期課程 第一種	全額免除	1	1	1
	半額免除	4	3	8
博士後期課程 第一種	全額免除	1	2	2
	半額免除	2	1	0

### 地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金

学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる学生を大学が推薦し、採用された者に奨学金が貸与もしくは貸与される制度です。大学院生が対象となる奨学金は多くはありませんが、年1回の登録期間に登録した学生の中から候補者が選考されます。その他に、希望者が直接出願する奨学金もあります。[外国人留学生は対象ではありません]

その他、海外へ留学するための奨学金、外国人留学生を対象とする奨学金もあります。

### 大阪大学授業料免除等制度

大学院に在籍する正規の学生で、学資負担者の死亡や風水害等の罹災、その他経済的理由など、本学が定める申請要件等に該当し、授業料(入学金)の納入が困難な学生を対象に、学生本人の申請に基づき予算の範囲内で選考が行われ、認められた場合には授業料(入学金)が免除される制度です。また、授業料(入学金)の納入期限が猶予される収納猶予等の申請制度もあります。

### 日本学術振興会の特別研究員制度

大学院博士課程在学者(DC)及び大学院博士課程修了者(PD)等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度です。

日本学術振興会PD/DC研究員の採用者数(人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
PD	3	4	3
DC	12	14	11

### 大阪大学フェロースhip創設事業

大阪大学は、令和3年度文部科学省事業「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業」に採択され、博士後期課程に進学する優秀な人材に対して、大阪大学フェロースhip創設事業(令和7年度博士後期課程入学者まで)がスタートしました。採用された学生には、研究専念支援金(生活費相当額)と研究活動を行うための研究費を支援します。

この他にも、大阪大学では、博士後期課程学生の研究活動を奨励・支援する取り組みの充実を図っています。

## 過去の主な就職先

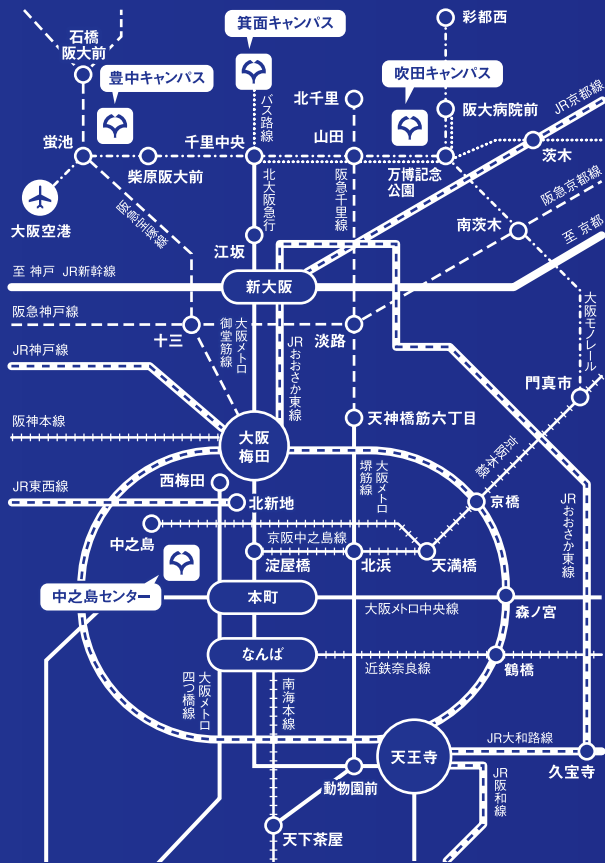
課程修了後は、中学校・高校等の学校教員になる者や国内外の大学等で研究を続ける者が一定数いるほか、国内外の民間企業等に就職する者も多数います。

### 主な就職先 ※順不同、敬称略、(株)省略

外務省、国土交通省、裁判所、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人国際交流基金、県庁、市役所、教育委員会、愛知県立美術館、奈良県立橿原考古学研究所、日本放送協会、大阪大学、近畿大学、学校法人大原学園、学校法人立命館、日産自動車、本田技研工業、ヤマハ発動機、パナソニック、東芝、DMG森精機、ダイキン工業、日本IBM、富士通、レンゴー、楽天グループ、Alibaba Group Holding Limited、塩野義製薬、野村総合研究所、アクセンチュア、有限責任監査法人トーマツ、リクルート、パソナグループ、数研出版、大修館書店、Z会、ベネッセコーポレーション、ナガセ など



# Osaka University Access

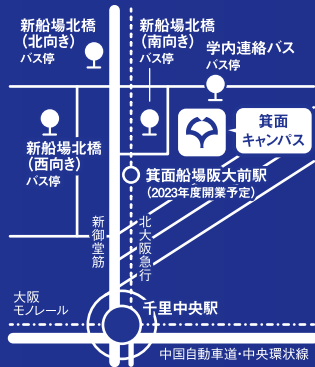


## ■ 豊中キャンパス



- ・人文学専攻
- ・日本学専攻 基盤日本学コース
- ・芸術学専攻
- 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
- ・言語文化学専攻
- 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8
- 阪急電車宝塚線
- 石橋阪大前駅(特急・急行停車)下車
- 東へ徒歩約15分
- 大阪モノレール
- 柴原阪大前駅下車
- 徒歩約15分

## ■ 箕面キャンパス



- ・外国学専攻
- ・日本学専攻 応用日本学コース
- 〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10
- モノレール・北大阪急行線
- 千里中央駅下車 北へ徒歩 約25分
- 阪急バス：千里中央発
- ⑦停留所 [81] [82] [83] 系統、[85] 系統、[22] 系統
- ⑩停留所 [19] [20] 系統
- 新船場北橋 下車 徒歩約5分
- ※ 急行便など新船場北橋に停車しない便もありますので、ご注意ください。
- ※ 系統によって、下車するバス停の位置が異なります(北向き)もしくは(西向き)。



## Contact

### ■ 人文学専攻・日本学専攻 基盤日本学コース・芸術学専攻

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5  
 大阪大学大学院 人文学研究科 豊中事務部 教務係  
 【TEL】 06-6850-5085 【FAX】 06-6850-5087  
 【E-mail】 jinbun-kyoumu@office.osaka-u.ac.jp

### ■ 言語文化学専攻

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-8  
 大阪大学大学院 人文学研究科 豊中事務部 学務係  
 【TEL】 06-6850-5856 【FAX】 06-6850-5865  
 【E-mail】 jinbun-gakumu@office.osaka-u.ac.jp

### ■ 外国学専攻・日本学専攻 応用日本学コース

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10  
 大阪大学大学院 人文学研究科 箕面事務部 学生支援係  
 【TEL】 072-730-5041 【FAX】 072-730-5057  
 【E-mail】 jinbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学大学院 人文学研究科

<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>  
 スマートフォンはこちらから ▶

